かしこく やさしく たくましく

浦和大里小学校だより

５月号　令和５年５月２日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成

１年生、初めての給食。おいしいね。
準備もてきぱき上手にできました。

『お住まいはどちらですか…？』

校　長　　中野　緑

「お住まいはどちらですか。」

４月は異動の季節。仲良くなるのによい話題の一つです。職場の仲間が実は近所に住んでいたことが判明し、よく行くお店の話で盛り上がることもあります。

ふるさとは、住んでいるところに限りません。かつて同じ学校で働いた同僚が浦和大里小学校で再会し「元〇〇小学校仲間」として和気あいあいと話している様子を見かけることがあります。また、子どもたちが学年や学校間を超えて習い事の仲間をつくり、楽しくお話している姿をみると、それもふるさとの一つのように感じます。

息子が高校に入学して初めての懇談会で、印象に残っている話があります。

「小さい頃は、足場をしっかり固める時期です。家庭が心の拠り所なるでしょう。大きくなるにつれて居場所はたくさんあった方がよい、とわたしは思います。勉強で行きづまっても部活がある、部活で行きづまっても家庭がある、問題解決の糸口が多くなります。」

担任の先生は、この話を生徒にもしたようで、素直な息子はある日、１つの運動部と、１つの文化部、そして文化祭実行委員に所属して帰ってきました。さすがに無理があり、文化祭実行委員は１年でやめてしまいましたが、充実した３年間を過ごすことができました。彼にとって、高校時代の部活動は「ふるさと」の一つだったのだと感じます。

さて、５月１日は「さいたま市民の日」です。令和３年に、さいたま市誕生２０周年を記念して設立されました。「自分の住むふるさとを好きになってほしい」「魅力的なさいたま市をみんなの手でつくってほしい」という願いがこめられています。

先日、学校地域連携コーディネーターの案内で、地域を回っていると、近代的に発展している武蔵浦和駅のすぐそばにもかかわらず、古くから大切に受け継がれているものがいくつも発見されました。また、地域の方に「こんにちは！」と声をかけていただき嬉しくなりました。帰ってきたくなるふるさとは、「温かな声掛け」「優しく手を差し伸べてもらった経験」「楽しく過ごせた時間」などよい人間関係で形つくられるものなのかもしれません。

そのような、帰ってきたくなるふるさととなるべく、学校では、「認め・励ます」を合言葉に子どもたちに声掛けをしています。「気持ちの良い挨拶だね。」「隅々まで雑巾がけありがとう。」「係のお仕事、がんばっていたね。」など「認める」こと。「あなたならきっとできるよ。」「こんなことも挑戦してみたら？」「ここまでやれたらかっこいいね。」などと少し高めの目標に挑戦するように「励ます」こと。地域の方やご家庭でも、きっと「とっておきの声掛け」があることでしょう。子どもには、ぜひ、シャワーのように、明るい言葉を浴びせたいものです。

ゴールデンウィークです。この一か月は、学年が上がって、初めての経験や新しい人間関係づくりの連続で緊張した毎日を過ごしたことでしょう。自分なりの頑張りを認め、どうぞゆったりとお過ごしください。

◆学校ホームページ内において子どもたちの日常を発信しています。「学校生活」をぜひご覧ください。◆